月刊 あなたにこの本を！ 平成 23 年 4 月号

大阪市立図書館 「あなたにこの本を！」選定委員会

大阪市立図書館が購入した新しい本の中から、図書館員のおすすめの本を紹介します。

…字が大きめ　…中高生にも　…図・写真が多い

※価格のあとの（ ）内の番号は、大阪市立図書館書誌 ID です。

三毛猫ホームズの文楽夜噺

赤川次郎　著　桐竹勘十郎　監修　　ジャンル ： 大阪にゆかりの本
角川書店（発行）　角川グループパブリッシング（発売）
1365 円　(0012177401)

ミステリー「三毛猫ホームズ」シリーズで有名な著者が、太夫や人形遣い、衣装担当など、文楽をつくり上げるさまざまな人との対談によって、その世界を紹介する。稽古の様子や芸への思いなどをとおして、伝統芸能に携わることの厳しさや自負が伝わってくる。また、歌舞伎との比較など著者独特の軽妙な文章で、演目の見どころも語られる。初心者から長年のファンまで幅広い層が興味を抱く一冊となっている。文楽への扉を開け、劇場に足を運びたくなる。〔777.1〕

マトリョーシカ大図鑑 －The book of matryoshka－

沼田元氣　写真・文　　ジャンル ： 暮らしにうるおいを
二見書房　2520 円　(0012160530)

洋梨のような形で知られる、ロシアの木製の入れ子人形マトリョーシカ。その美しさに心がなごむのは、女性、特におばあちゃんの姿を象徴しているからだと著者はいう。本書では雑貨の買い付けで 50 回以上もロシアを訪れている著者が、産地などから系統立てて 1000 点に及ぶ写真で紹介する。大きさ・入れ子の数・表情など多種多様なマトリョーシカに圧倒される。完成品だけではなく形の削りだしや絵付けなどの製作過程や工房の様子にも触れられ、興味深い。〔759.9〕

人と人をつなぐ料理 －食で地方はよみがえる－

奥田政行　著　　ジャンル ： 暮らしにうるおいを
新潮社　1470 円　(0012173605)

著者は、山形県庄内地方で地場産の食材を用いたイタリア料理を提供する気鋭の料理人だ。藤沢カブと庄内ブタを組み合わせるなど、独創的な彼の料理は、国内外から注目を集める。本書では、平田赤ネギをはじめ、庄内の在来作物の価値を再発見し、料理人と知識人と生産者のネットワークによって普及に努めてきた体験をつづる。全国各地を回り、講演や講習会もおこなってきた著者の提言には、食を中心とした地方活性化のヒントがあふれている。〔673.97〕

言葉でたたかう技術 －日本的美質と雄弁力－

加藤恭子 著
文藝春秋 1350 円 (0012198202)

ジャンル ： 知識・教養を深める

主張するために必要なことは何か。本書は、米国の大学で学び生活した日々から、著者が体得した弁論術を紹介する。異文化で暮らす人との認識のずれ「パーセプション・ギャップ」に気付くこと、自分の論点の正しさを証明し説得すること等が、実体験と共に語られ関心をひく。ビジネスにおける外国人との交渉から日常会話まで、様々な場面で役立つ手引書。美点とも弱点ともなりうる、「正直」「謙遜」という日本人らしさについても考えさせられる。〔361.62〕

半魚人伝 －水中写真家・中村征夫のこと－

藤崎童士 著
三五館 1995円 (0012188762)

ジャンル ： 生き方・考え方に学ぶ

水中写真の第一人者、中村征夫氏の作品と半生を紹介する評伝。彼は死の海と呼ばれた1970年代の東京湾で、懸命に生きる生物の姿を追い、津波被災1年後の北海道奥尻島の沖合では、流された島民のポロシャツを撮影する。また、水中で鮫と向きあったり、写真展で実物大の鯨の写真を見せようとしたりといったエピソードからは、作品への強いこだわりが伝わる。真摯に仕事に取り組む姿を、新進のノンフィクション作家が共感を持って描いており感動を呼ぶ。〔740.2〕

モーツァルトの食卓

関田淳子 著
朝日新聞出版 1365 円 (0012201697)

ジャンル ： 知識・教養を深める

6歳のときから宮廷音楽家の父とともに、ヨーロッパを縦横に巡り演奏旅行をしていたモーツァルトの食生活を、ハプスブルク家研究家の著者が解明する。父子の書簡や貴重な史料をひもとき、18 世紀当時の料理が丁寧に紹介されている。旅先での毎日の食事は、総菜屋の質素な料理や修道院の精進スープだったが、貴族に招かれ豪華な宮廷料理を食することもあったという。ひとりで食べることを嫌ったモーツァルトの素顔や、貴族たちの暮らしぶりも垣間見える。〔762.34〕

ぼく、牧水！ －歌人に学ぶ「まろび」の美学－

伊藤一彦、堺 雅人 著
角川書店（発行） 角川グループパブリッシング（発売） 820 円 (0012147948)

ジャンル ： 知識・教養を深める

歌人・伊藤一彦と、高校時代の教え子である俳優の堺雅人が、同郷人の若山牧水について対談した記録。人生とはバランスを崩し転びながら前進すること、つまり「まろび」であり、その経験を対象化し歌うことで自分を救っていたと、牧水の生き方について語り合う。自然と一体化し、さびしさに裏打ちされた「あくがれ」を追い続けた牧水の歌と生涯が、二人のそれぞれの立場や経験から読み解かれ、いきいきと浮かび上がる。改めてその魅力に触れたくなる。〔911.162〕

清冽(せいれつ) －詩人茨木のり子の肖像－

後藤正治 著
中央公論新社 1995円 (0012182851)

ジャンル ： 生き方・考え方に学ぶ

73 歳で発表した詩集『倚(よ)りかからず』が、そのジャンルでは異例のベストセラーとなった茨木のり子。平易だが、澄んだ流水に身を洗われるような彼女の言葉に感銘を受けた著者は、彼女の人生に関わった人々を丁寧に取材し、足跡をたどる。その作品から受ける印象通りの品性と自立性を備えた人物像が浮かび、詩の理解の一助となる。死後に知人や友人に送るよう甥(おい)に託した「別れの手紙」も紹介され、彼女の生き方そのものを表しているようで感慨深い。〔911.52〕